

# 水災害リスク情報の空白域解消に向けて ～浸水想定区域図の作成・周知～



## 気候変動に伴う豪雨の頻発化・激甚化への対応

- 近年、全国各地で激甚な水災害が頻発しており、今後も気候変動の影響により降雨量の増大等が想定される。
- 流域のあらゆる関係者が連携して防災・減災に取り組むことが重要。

近年の自然災害		西日本豪雨	東日本台風（台風19号）
年	出来事		
2015	関東東北豪雨		
2016	(北海道・岩手) 豪雨		
2017	九州北部豪雨		
2018	西日本豪雨		
2019	東日本台風（台風19号）		
2020	令和2年7月豪雨		
2021	令和3年7月豪雨		

小田川(岡山県倉敷市)

千曲川(長野県長野市)

令和5年度 水管理・国土保全局関係予算概算要求資料より引用

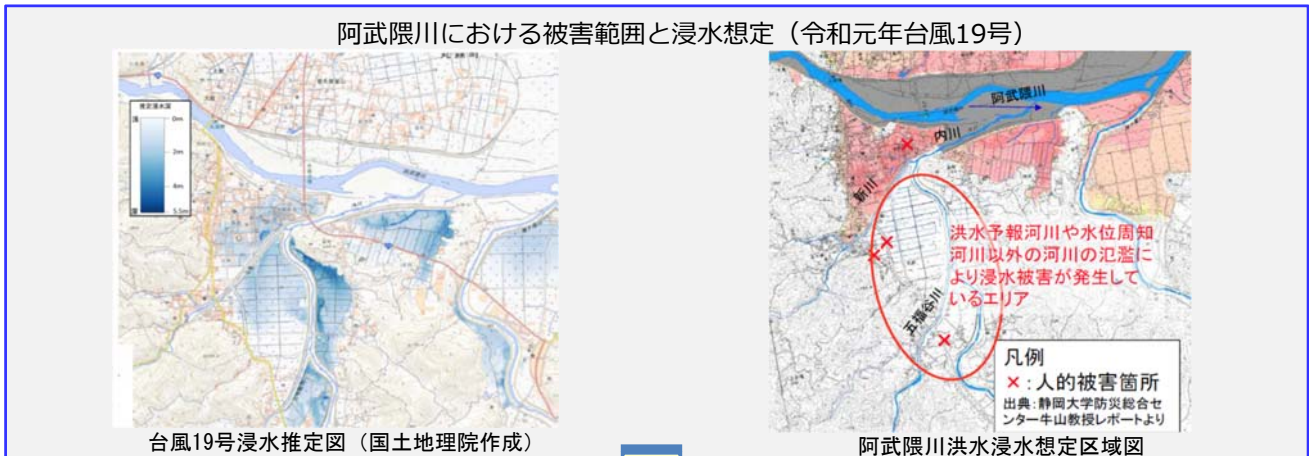
水防災意識社会の再構築

**防災・減災の取組強化  
(流域治水の推進)**

流域のあらゆる関係者が連携して取り組む防災・減災への転換

# 水害リスク情報の空白域解消

○近年の水害では、浸水リスクが示されていない場所で人的被害が発生しており、水害リスク情報の充実が求められている。



## 水害リスク情報の空白域を解消

【令和3年7月 水防法改正】洪水浸水想定区域の指定対象を全ての河川に拡大

＜静岡県＞  
県管理河川

洪水浸水想定区域  
**59河川**  
太田川、都田川、瀬戸川など  
(洪水予報河川・水位周知河川)



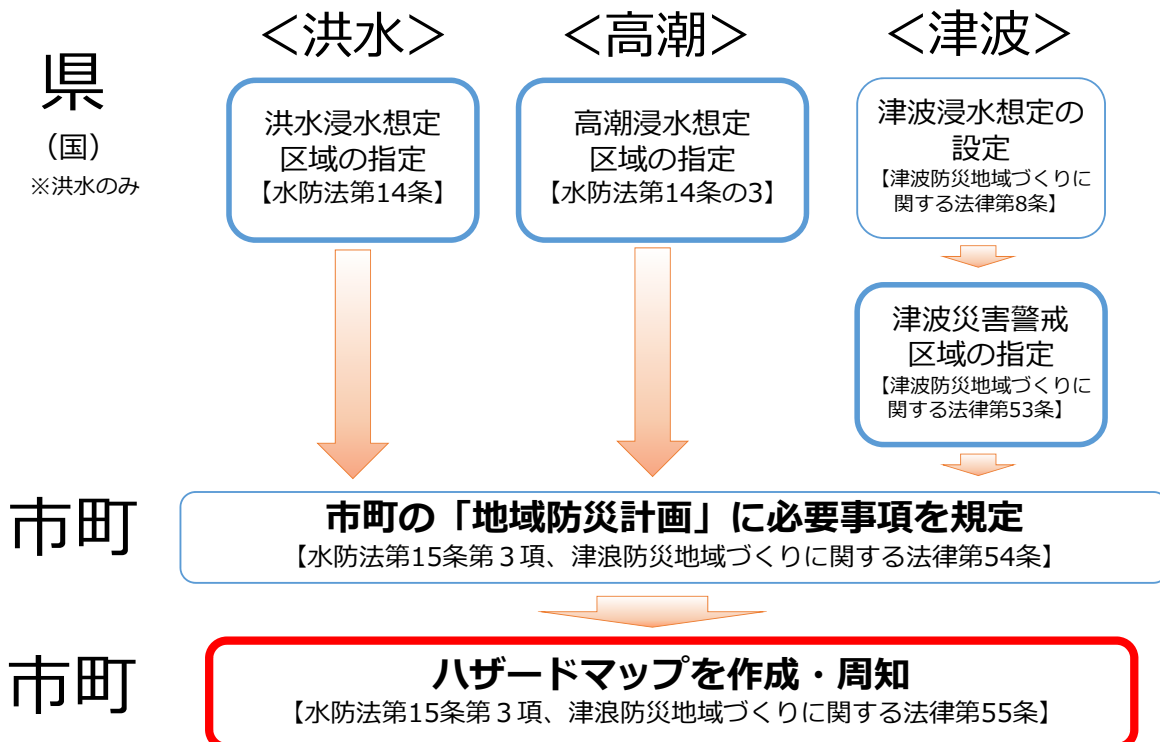
新たに作成  
**447河川**  
全ての河川

3

# 水害リスク(洪水・高潮・津波)の周知

○水害リスクの周知には市町との連携が不可欠。

ハザードマップ作成までの流れ（水防法・津波防災地域づくりに関する法律）



4

# 住民等の円滑かつ迅速な避難行動のために

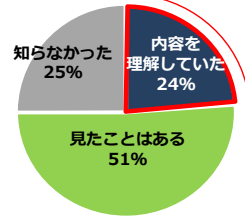
○市町がハザードマップを作成・整備した後も、住民が継続的にハザードマップの内容の理解を深める工夫が必要。

## 西日本豪雨（倉敷市真備地区）のアンケート調査

同地区で被災した住民の多くがハザードマップの存在を知っていたものの、内容まで理解していた方は少数だった。

### 兵庫県立大 阪本准教授調査

#### ハザードマップを知っていたか

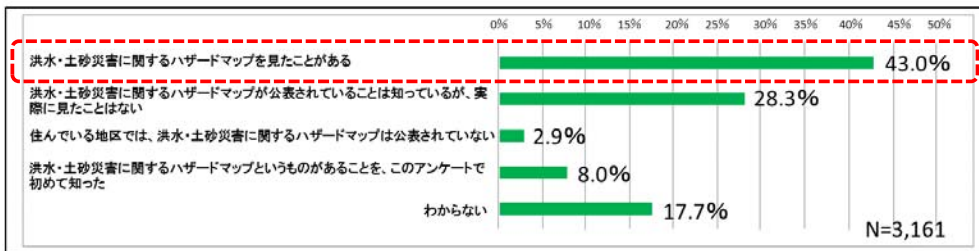


ハザードマップの内容を理解していた  
24.0%

第1回平成30年7月豪雨による水害・土砂災害からの避難に関するワーキンググループ（内閣府）資料より引用

## 静岡県住民意識調査

風水害・土砂災害のリスクがある地域の周辺に居住する県民であっても、ハザードマップを認知している割合は4割程度にとどまっている。



ハザードマップを見たことがある  
43.0%

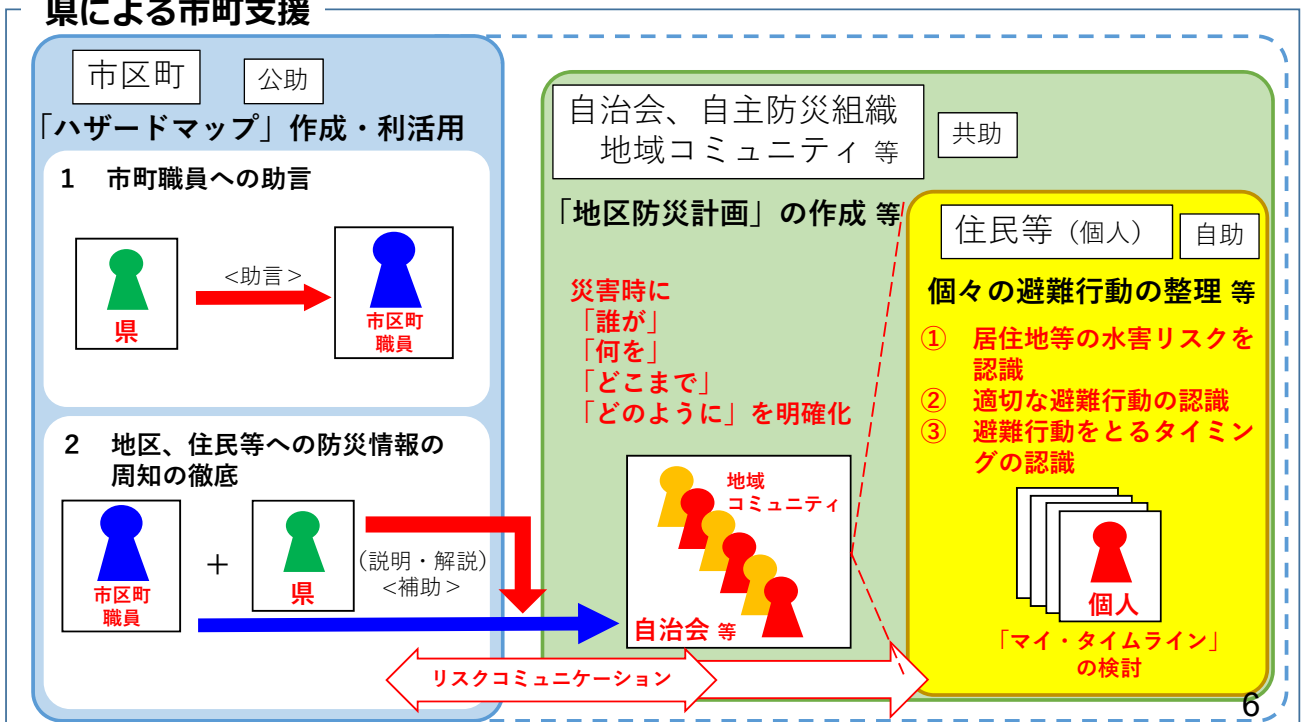
※静岡県住民意識調査「大雨による災害と防災情報に関するWEBアンケート」より  
調査期間：平成31年2月27日～3月4日 調査対象者：県内で「洪水・土砂災害リスクのある地域の周辺に居住」する成人男女3,192人

# 県による市町支援（水害リスクの住民等への周知）

○交通基盤部の役割は以下のとおり。

- ・地域の水害リスク、水害発生メカニズム、減災のための行動等、正確な理解を市町担当者に促す。
- ・市町による地区等への防災に関する説明を補助し、住民等とのリスクコミュニケーションを活性化させる。

## 県による市町支援



# 県による市町支援(水害リスクの住民等への周知)

- 全市町を対象とした講習会等を毎年実施していく。(新ビジョンの活動指標)
- 「わたしの避難計画」や「マイ・タイムライン」など県民一人ひとりが水害をわがごととして捉え、避難等の防災行動の実効性が高められるよう市町支援する。



マイ・タイムライン研修会  
(袋井市友永：三川コミュニティーセンター)  
令和元年7月25日開催

「わたしの避難計画」

～作成ガイドで確認したことをメモしておこう～

**大雨の時**

**河川氾濫** **土砂災害**

●避難のタイミング

●避難先

●情報収集手段 (※を塗りつぶす)

- 牧之原市LINE
- まさのぼらTeaメール
- 静岡県防災アプリ
- その他

**巨大地震の時**

**自宅に津波が来る地域** **自宅に津波が来ない地域**

●避難のタイミング

●避難先

●避難のタイミング

●避難先 (集合場所)

自由記載欄 (持ち出し品や、家族や構成の電話番号など)

巨大地震に備え、1週間分の水・食料・生活必需品の備蓄をしましょう!

「わたしの避難計画」 (危機管理部)